

令和3年度事業計画

前期は、協会創立60周年を迎える年であり、6つの記念事業を計画していましたが、そのうちの4つは新型コロナウイルスの感染拡大により、今年度への延期を余儀なくされるとともに、これまで開催してきた、講演会、セミナー等の人が集まるイベントも全てオンラインでの開催となりました。

令和3年度は、前期でなし得なかった60周年事業の実現と、新しい生活様式を考慮した協会の公益活動の推進により、「不特定、多数の人々への貢献」の更なる具現化の年としてまいります。

I. 令和3年度事業計画

I 公益事業

(1) パッケージデザインに関する調査・研究及び情報の収集・発信事業

1) 調査研究事業

(a) 調査研究、及びWEBサイト用資料の作成

ここ数年取り組んでいる「社会課題とパッケージデザイン」について、新型コロナウイルス出現以降の生活様式や価値観、行動の変化を踏まえ、ワークショップ方式も活用しながら、委員会内での研究活動を継続的に推進していくとともに、JPDAライブラリーサイト【情報の森】内のコンテンツ更新・拡充を進め、定期的に情報を発信していく。

(b) 調査研究成果の発表

年度内の2022年2月頃に研究会を開催し、研究成果の報告、及び、意見交換を行う場とする。研究会はハイブリッド（リアル＋リモート）を想定しているが、状況次第で変更の可能性もある。

2) アーカイブ事業

D-8デザインミュージアムに対応するJPDAの資料作成、及び、JPDA独自の資料アーカイブ化に向け、1985年から実施されている日本パッケージデザイン大賞の大賞・金賞作品の収集をスタートした。今年度も継続して作品収集及び、資料整理を行い、JPDA アーカイブ委員会サイトへの作品情報の更新を行うとともに、大賞・金賞受賞者へのインタビュー録画「声のアーカイブ」活動も継続し、会員専用ページへの掲載更新を続ける。また、今年度はオンラインでのアーカイブ委員会第3回セミナーの開催を計画している。

3) 広報事業

「JPDA MAGAZINE」はコロナ禍で余談の許さない状況の中、JPDAの活動や思想を発信することで、協会員はもとより、協一般の方々への希望となり、活力となる広報誌を目指す。また、2022年3月発刊予定のVol.08は今年度に完結する。

4) インターネット事業

●インターネット、メールメディアによるJPDAの広報活動、及びマイワークスの運営を継続して進める。

- ①協会ウェブサイト(一般/会員)の企画・運営、掲載情報の更新
- ②メールによる会員への迅速な報告・連絡の推進、及び、SNS活用による一般への情報発信
- ③情報発信機能の強化を目的とした継続的なサイトの保守・改修

2021年度は、延期された60周年記念事業を含め、ニュースリリースやSNS活用による情報発信強化に注力したい。

(2) パッケージデザインに関する公募、審査、受賞者の発表、及び贈賞に関わる事業

1) コンペティション事業(日本パッケージデザイン大賞AWARDS)

今年度は2022年に審査が行われる「日本パッケージデザイン大賞2023」の実施に関して、一次審査映像化の継続とスムーズな審査の実現について検討を進めていく。

2) JPDA学生プロジェクト（学生賞創設に向けての準備）

未来の協会員となる人材を育成すべく、2022年度のスタートを目指して学生を対象としたコンペティション創設の検討を進める。

2021年度は準備期間と位置づけ、学校・学生との継続的な関係確保とJPDA学生賞のPRを兼ねたセミナー・ワークショップを開催する。2022年4月からの新学期開始前に学生賞の概要を確定し、募集のためのWebサイトを開設する。

(3) パッケージデザインに関する展覧会事業

1) 展覧会事業

a) 創作展「みらいパッケージ展」

2021年度はコロナ禍で延期された60周年記念事業の一つとして創作展「みらいパッケージ展～100人が描くこれからのパッケージデザイン～」を開催する。2016年、2018年に続く第3回目の創作展として東京(渋谷ヒカリエ)、関西

(会場未定)の2カ所で開催し、3回の展覧会を纏めた図録を東京展開催の9月に発刊してJPDA60周年を盛り上げたい。

b) 企画展「日本のパッケージ 縄文と弥生のデザイン遺伝子 複雑とシンプル」

前年度の開催が延期となった60周年記念事業「日本パッケージ 縄文と弥生のデザイン遺伝子 複雑とシンプル」を2021年2021年8月7日(土)～10月3日(日)の間、凸版印刷博物館と共催する。展覧会開催中に講演会あるいはトークショーの開催を検討する。

共催の費用内訳は、当初の予定通り図録制作費はJPDA、印刷製本費は印刷博物館が負担。また、トークショーの諸謝金等の費用は印刷博物館が負担するが、オープニングパーティーが可能な時の飲食費はJPDAの負担とする。

c) 「日本パッケージデザイン大賞2021」巡回展

今年度はこれまで実績のあった大阪成蹊大学(6月)、富山デザインフェア(10月)、凸版(株)印刷博物館(10～12月)の3カ所での開催を進める。

(4)パッケージデザインに関する各種セミナー・育成事業

1)セミナー事業

a) 東日本

前年度はコロナウィルスの影響で中止を余儀なくされたが、今年度は2019年度まで開催してきた、若手中堅デザイナーをターゲットに、パッケージの新たな可能性をテーマにした「トークカフェ2021」を、交流促進につながるリアルなイベントとして、コロナ収束のタイミングを見計らって開催する。

b) 中日本

① 愛知・岐阜地区

前年度は中日本の久々のイベントとして、3月に中心都市である名古屋でJPDA大賞2021巡回展を開催したが、今年度はパッケージデザインの中日本でのレベル向上と活性化を目指して、募集対象を北陸地区のパッケージデザイナーや学生まで広げた「中日本パッケージデザイン展」を開催する。

また、期間中にパッケージデザインに関するトークショー開催も併せて検討する。

②北陸地区：富山デザインフェアへの共催

パッケージデザインや広告・ポスター・ディスプレイなど県内外の創造性豊かな商業デザインジャンルの優秀作品を一同に展示し、広く一般や企業の方にアピールするデザイン振興イベント「富山デザインフェア」に共催する。

富山市主催の「パッケージデザインコンペティション」入賞作品展、及び、JPDA北陸会員の作品展に加え、合わせて「JPDA大賞2021」の入賞作品40点を展示する巡回展を開催する。

③北陸地区：「JPDA Talk Café 2019 in KANAZAWA」(若手デザイナー育成セミナー)

2013年度にスタートした、次世代のパッケージ業界を担う若手デザイナーと学生を対象としたトークイベントは、開催地を富山と金沢を隔年で変更することにより各地域のデザイナーとの新しい交流も活性化している。

前年度はコロナウィルスの影響で中止となったが、今年度は8回目、金沢での開催となる。

c) 西日本

①「勉強会Vol.1と総会報告会」

主に西日本の会員を対象に、例年東京で開催される通常総会の報告会をオンラインで開催する。同時に、パッケージデザインに関わる事業や人材育成に資する勉強会をオンラインで開催する。(令和3年6月開催予定)

②「勉強会Vol.2」

会員及びパッケージデザインに関わる人々を対象に、パッケージデザインに関わる「造形」、「素材・加工」、「製造」「文化」、「ビジネス」などをテーマにしたオンライン勉強会または展示会を開催する。

2)デザイン保護事業

a) Webサイトによる情報発信

Webサイト、SNSを通じた、パッケージデザインに関連する知的財産権についての事例研究や各種セミナー・勉強会等の情報発信を行う。

b)知財セミナーの開催

パッケージの分野で押さえるべき知的財産権をテーマアップし、年間4回の会員向け勉強会を開催する。

その総括レポートを活用して、公開知財セミナーをオンラインで開催する。

3)教育事業

a) オンラインデザインセミナーあるいは交流会の開催

過去開催した若手デザイナーをメインターゲットにしたワークショップに代わり、海外デザイナーとのオンラインセミナー、あるいは海外デザイナーとのオンライン交流会を開催する。

b) パッケージデザインの学校

60周年記念事業の一環として、「最強の発注者を養成する」ことを目的とした、パッケージデザインに関する広範囲の知識を取得していただくための学校を2020年6月～7月に開校する計画だったが延期となった。2021年度は6月以降にオンラインでの開校を前提に、早期に参加費の詳細を検討する。

(5) パッケージデザインに関する国内・国際交流事業

1) 国内交流事業

● オンライン交流会の継続とリアルな国内交流会の可能性を探る

2020年度の後半にスタートしたオンライン交流会「みんなであつなごうデザインの輪！」を、今年度も継続して5回の開催を進めるが、コロナウィルスの収束が見込めればリアルの開催も検討していく。

2) 新年交流事業

a) 東日本：「新年デザイン交換会」

令和4(2022)年1月に、新年デザイン交換会(第一部：講演会、第二部：賀詞交換会)を開催する。

b) 西日本：「勉強会Vol.3+新年デザイン交流会」

パッケージデザイン関係者を対象にした新年交流会を開催する。また、幅広い層の人々に興味を持たれる勉強会を対面とオンライン両方で開催し、参加者の啓発とネットワーク作りに役立てていただく。

3) 国際交流事業

a) 「アジアパッケージデザイン会議(APD 2021)」

APDは、アジアの文化交流・人的交流・パッケージデザイン向上を以て、アジアの生活文化の発展に寄与することを目的とした国際会議で、2020年11月、奈良で9回目の開催検討を進めてきたが、コロナ禍の中延期を余儀なくされた。2021年度も海外からの渡航が難しいことを考慮し、Webでの初のオンライン国際会議として11月開催の検討を進める。今回は韓国・上海・台湾・日本に加えてタイ・インドネシアが参加する予定である。

b) 海外デザイン視察準備

前年度は2021年度の海外視察実施に向けた準備を考えていたが、コロナの影響で2021年度も海外渡航が難しい状況にあるので、視察候補と考えていたロンドンのデザイン関係の会社2～3社をオンラインで訪問・見学、あるいはトークショーの実施を検討する。

(6) 出版事業

1) 『年鑑 日本のパッケージデザイン』の発刊

日本パッケージデザイン大賞2021の入賞・入選作品を掲載した「年鑑 日本のパッケージデザイン2021」を令和3(2021)年5月に発刊する。

2) 『パッケージデザイン・インデックス』の企画制作

最新の日本のパッケージデザインに関する作品と技術を網羅し、パッケージとブランディングに関わる全ての人に役立つ作品集「Package Design Index 2022」の令和4(2022)年5月の発刊を目指して企画制作を進める。

3) 『新企画本』2種の企画制作

a) 『60周年企画展の作品集』

2021年8～10月の開催を予定している企画展「日本のパッケージ 縄文と弥生のデザイン遺伝子 複雑とシンプル」の展示作品をまとめた簡易な書籍の発刊に向け企画制作を進める。

b) 『60周年企画展の作品集』

これまでの『年鑑』、『PDインデックス』とは異なる、テーマ設定に基づいた作品を集めた企画本の出版を意図して企画制作を進める。

II 収益事業

(1) アジア学生パッケージデザイン交流プロジェクトの受託事業

2020年度はコロナウィルス感染拡大の影響で、アスパックの全ての事業が中止となり、2021年度も海外からの渡航・交流が望めないことから、2020年12月をもってアスパック協会が解散となった。2021年度はこれに代わる新たな収益事業の探索・検討の年と位置づける。

III 法人事業

(1) 総務事業

2020年度から会員名簿のデジタル化が実現したが、令和3(2021)年の事業カレンダーの作成は継続する。